

ソーシャルワークスーパービジョンスキル指標 —個別スーパービジョンにおけるスーパーバイザーのスキル—

○ 日本福祉大学 大谷 京子 (会員番号 002998)

キーワード3つ：スーパービジョン・スキル評価・質問紙調査

1. 研究目的

ソーシャルワーカーの実践力と専門性の向上、アイデンティティの確立、バーンアウトの防止、社会福祉関係機関のサービスの質の担保等、スーパービジョン（以下、SV）への期待は高まっている。理論的には蓄積があり、各専門職団体も、スーパーバイザー（以下、SVR）養成に取り組み、徐々にSVの実践も広がってきている。しかしSVRとしての活躍が期待されるソーシャルワーカーたちの多くは、概念としては理解しているが、スーパーバイザー（以下、SVE）経験もなく、具体的に何をどのようにすれば良いのかイメージさえ持てない状況にある。

そこで、個別SVにおいてSVRにはどのようなスキルが求められるのかを明らかにするために、私たち日本福祉大学スーパービジョン研究センターのソーシャルワークSVスキル研究チームでは、ベテランSVRのSVセッションの逐語記録を分析し、634のスキルを抽出した（神林2017）。本研究では、これらのスキルを基に、SVスキル評価指標を開発することを目的とした。

2. 研究の視点および方法

調査期間は、2018年2月13日から発送を始め、2週間後に督促のハガキも送付し、4月末日まで回収した。調査協力者は、認定社会福祉士認証・認定機構登録のSVR422名、日本精神保健福祉士協会認定SVR95名の計517名である。認定社会福祉士認証・認定機構登録のSVRの内、連絡先が公表されているSVRについては直接依頼をし、都道府県社会福祉士会を連絡先に行っている方には、都道府県社会福祉士会の協力を得て、個々のSVRへメールや郵便で質問を送付した。

質問項目は、SVセッションの各フェーズで活用される634のスキルについて、意図をもった行為としてまとめ22項目を生成した。ベテランSVR12名とSVの研究者に、文言の明瞭さと内容的妥当性の確認を依頼した。内容の重複をなくし、文言を練磨した21のスキル項目と、属性を問う11項目からなる質問紙を完成させた。

分析は、SPSS21を使用した。回答者の属性を把握し、スキル尺度と属性との関連を、分散分析とt検定で分析した。

3. 倫理的配慮

調査協力者には研究の趣旨を文書で説明し、個人が特定されないこと、個人情報

ないこと、研究以外の目的でデータを利用しないこと、本研究以外の目的でデータを利用しないこと、研究成果は学会等で公表することを約束した。その他は日本社会福祉学会研究倫理指針に従った。

4. 研究結果

回収された調査票は 291 票（回収率 56.2%）であった。その内、これまでに個別 SV の実施経験がないと回答された 62 票は除外し、229 票を分析対象とした。有効回答率は 44.3% である。

回答者の属性：年代は、20 代は 0、30 代は 15 名（6.6%）、40 代は 70 名（30.6%）、50 代は 95 名（41.5%）、60 代以上は 48 名（21.0%）、不明が 1 名（0.4%）だった。ソーシャルワーカー歴（ソーシャルワーカーとしての経験年数）は、0 年から 45 年（平均 21.33）、SVR 歴（SVR の経験年数）は、0 年から 30 年（平均 7.63）、担当 SVE 人数は、0 から 100 人（平均 7.79）、これまで行った個別 SV 累計回数は、10 回未満が 51 名（22.7%）、10-50 回が 125 名（55.6%）、50-100 回が 30 名（13.3%）、100 回以上が 19 名（8.4%）だった。

21 項目の信頼性係数 α は .904 だったため、内的整合性があると判断した。そこで 21 項目すべての項目得点の合計値を SV スキル得点とし、属性項目との関連を検討した。その結果、ソーシャルワーカー歴、SVR 歴、SV 講師経験の有無といった属性において有意な差があった。Tukey HSD を用いた多重比較によれば、ソーシャルワーカー歴は、「10 年以下」と「21 年から 25 年」の間に有意な差があり、しかも「10 年以下」が他のどの経験年数よりもスキルスコアが高かった。SVR 歴は、「1 年以下」と「5-10 年」、「16-20」年の間に有意な差があった。SVE 人数は、「10 人以上」と「2 人以下」、「3-4 人」との間に有意な差があった。

5. 考察

今回の調査ではサンプル数が不足しているため、結果が不安定であることは否めないが、21 項目のスキル評価尺度は、一定の信頼性が確認できた。さらに、SV のスキルは、単にソーシャルワーカー歴があれば習得できるものではないことが明らかになった。SVR としての年月よりも、SVE の人数がスキルに関連していた。つまり SV 実践こそが、SV スキルを向上させることを検証できた。

今後は、個々の SVR が、毎回のセッションの振り返りのために活用できる、21 項目に対応するチェックリストを作成する予定である。特定のスキルを高めるためには、何をすればよいのかを明示し、自らを省察し、課題を見出せるツールにしたいと考えている。

引用文献

神林ミユキ(2017)「スーパービジョンセッションにおいてスーパーバイザーが用いるスキルーソーシャルワーカーによるスーパービジョンの質的調査一」『社会福祉学』58(1), 71-85.